

ParaFla フラッシュフリーソフトの使い方

1. ソフトのダウンロード

1)インターネットよりダウンロード

ダウンロード元(URL: <http://www.geocities.jp/coa9999/download.html>)



2)フォルダの解凍

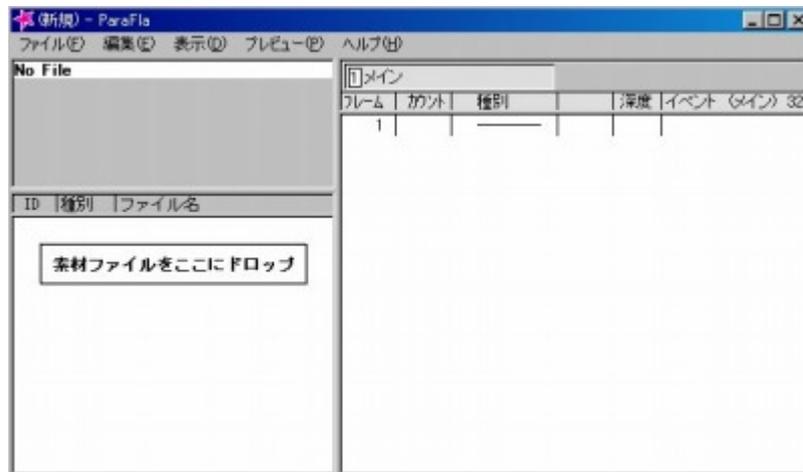
Zip 形式でフォルダがダウンロードされますので解凍します。

2. SWF・HTMLファイル作成の初期準備

1) 解凍されたフォルダ **parafla138** を開き **parafla.exe** をクリック

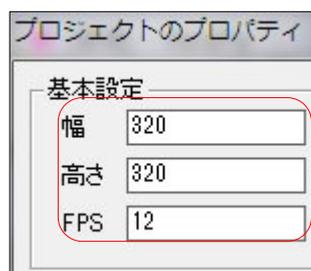
①作業ウインド図1が開きます。

図1



②ファイル→プロジェクトのプロパティ図2を開き作成するHTMLファイルのサイズを決めます。(初期値は320になっています)。

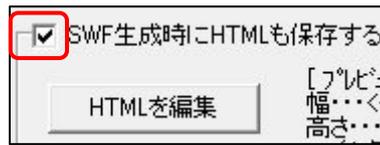
図2



ページ一杯ですと 800X800
小さくすると 200X200 程度

③ファイル→詳細設定を開きSWF生成時にHTMLも保存するにチェック図3を入れます。

図3



3. 画像の挿入

1) 背景画像(固定)

作業ウインドに背景となる画像を順番に作業ウインドの左下へドラッグします。
(背景はIDを1にします。 背景を最初にドラッグする)

2) その他の画像

作業ウインドに順次ドラッグします。(GIFは不可)

4. テキスト (文字・エフェクト) 挿入

1) フォント・サイズ・テキストの記述

①作業ウインドの左下を右クリック→アイテムを追加→テキストをクリックするとファイルのプロパティ図4が開きます。

図4



②テキストの設定に文字を書きます。

③必要に応時、太字・斜体にチェックを入れます。

④フォント・サイズを決めます。(初期はフォントの前にアンダバーがついていますが、このフォントは使えませんが、他のフォントを選択してください。)

2) テキストエフェクト

①適切なフォントに変更するとファイルのプロパティの下部が図5のように変わるのでテキストエフェクトにチェックを入れると、テキストエフェクトが図6表示されます。

図5

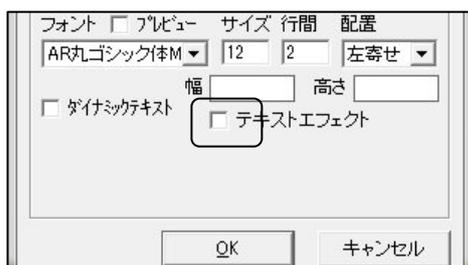
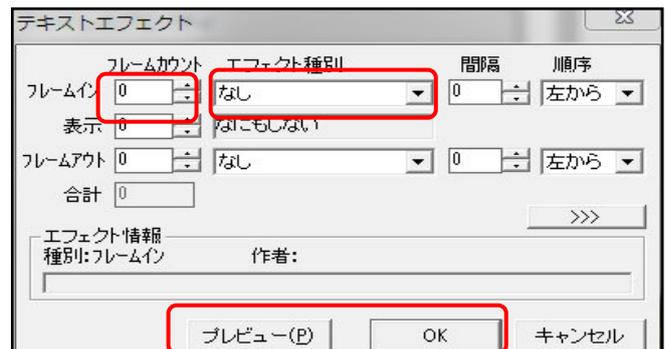


図6



②フレームインのカウン트에50~100程度のフレームを入れます。

③エフェクト種別の右三角をクリックして好みのエフェクトを選択し、プレビューをクリックして状況を確認します。

④良ければOKをクリックして完了です。

5. イベントに追加

図1の作業ウインド左下に画像・テキストのファイルが挿入されていますのでそれぞれファイルを右クリックしてイベントに追加を選択します。

(全てを選択して一度に行うこともできます)

例示ですがイベントを追加すると作業ウインドの右に図7ようなファイルが表示されます。

図7

フレーム	カット	種別	深度	イベント (メイン) 200×200 12fps SWF6
1		画像	0001	0 [(0,0) x1 0°] (固定)
		画像	0011	1 [(0,0) x1 0°] (固定)
301	300	画像	0002	2 [(185,186) x0.4 0°]→(13)→[(-20,-20)
601	300	画像	0002	3 [(14,142) x0.4 0°]→(13)→[(250,-10)
1	-600	アクション		クリック
1	300	テキスト	0003	4 [(25,50) x1 0°]⇒[(25,120)
301				

6. イベントの編集 (画像・テキストの配置)

1) 背景画像の固定

①作業ウインド右の背景(固定)となる画像をクリックします。イベントのプロパティ

図8が開きます。

図8



②IDは1とします(背景はIDを1にする必要があります)

③固定画面にするをクリックして固定にします。(通常画面/固定画面が繰り返します)

2)画像の変化(直線的)

- ①作業ウインド右にある画像をクリックしフレームカウントを 300 とすると図9が開きます。

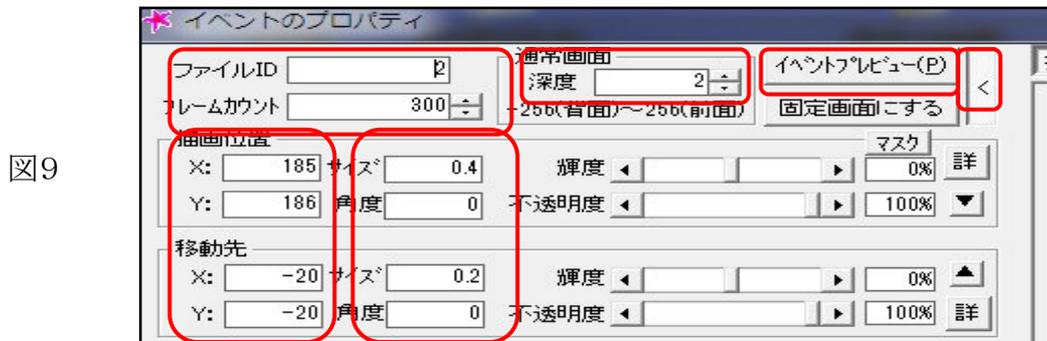


図9

- ②描画位置・移動先のXYをかえると画像が移動します。て、色々変えて画像の動きの様子を見ます、フレームカウントを大きくすると動きが遅くなります。
 - ③描画位置・移動先のXYを同じにすると画像は停止してしまいます。
 - ④サイズを任意に変えると拡大・縮小が表示できます。
 - ⑤描画位置・移動先のXYをかえ、サイズを任意に変えると複雑な表示になります。
- 以上をトライアンドエラーで決めてください。
- ⑥IDは2とします。自動的につきます。(1 でなければ可)
 - ⑦深度は1(固定画面の次であれば可)
- 以上をトライアンドエラーで決めてください。
- ⑧その確認はイベントプレビューをクリックして行います。適用をクリックしOKすると確定されます。

より簡単な方法

又イベントプレビューの右にある、くの字をクリックするとイベントのプロパティの右側に図10が開き画像の表示移動の状況が確認できます。

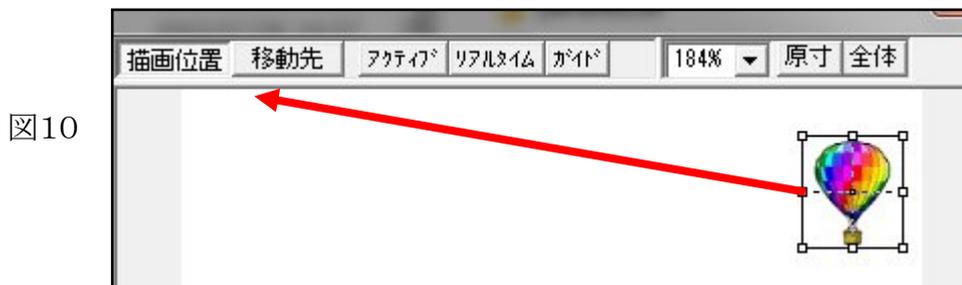


図10

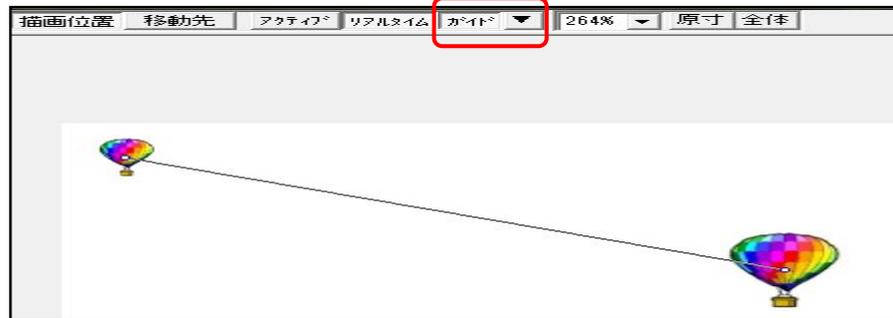
図10に表示された画像を目的の位置へドロップして移動しても動く画像になります。

この方法の方が画像の移動についての設定が視覚的に確認できるので操作が簡単です。

2)画像の変化(曲線的)

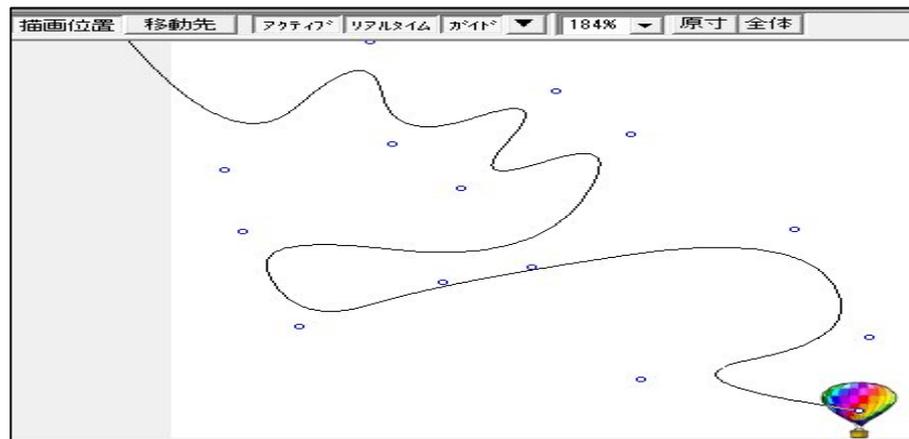
- ①描画位置・移動先に画像を表示させガイドをクリックすると図11の様に直線で結ばれます

図11



- ②ガイドをクリックして→曲線を選択しカーソルポインタを線上に正確に置き右クリックしたまま移動すると任意の曲線図12ができます。数か所ポイントして曲線を作ります。

図12



- ③その確認はイベントプレビューをクリックして行います。適用をクリックしOKすると確定されます。

3)テキストエフェクトの表示位置確

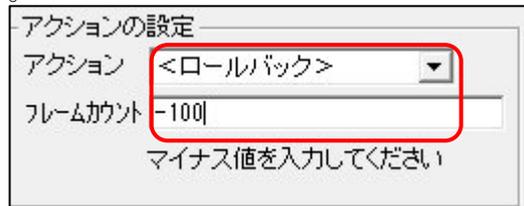
テキスト(文字・エフェクト)は4. で作成済なので、作業ウインドの右にある該当のテキストファイルをクリックしてイベントのプロパティのくの字をクリックし内容を表示させ位置を調整確認します。

4)画像・テキストの表示順序

- ①作業ウインドの深度の順番でテキスト・画像が表示されます。
一つのファイルが終わると次のファイルが始まります。
- ②画像の深度を同じにするとスライドショーになります。
表示時間はフレームカウントの数によります。
(フレームカウントが多ければ表示時間が長くなります。

- ③同一画面に複数のファイル(画像やテキスト)を表示させるには該当のファイルの深度をシリーズにしてファイルを作成します。
該当の画像・ファイルに必要なフレーム迄ロールバックさせます。
該当の画像テキストを右クリック→アクションの挿入を選択→アクションの設定
図13が開きます。

図13



- アクションにロールバックを選択します。
→フレームカウントにマイナス数字を入れます。(表示したい深度の画像までのフレームカウントを遡る)
→適用をクリックして完了です。

5) 画像・テキストテキスト全体の確認

図1の作業ウインドのプレビューをクリックすると動き全体の動きを確認できます。

6) その他

このままですと繰り返し表示されエンドレスです。
止めたい時はファイルの最後の行にアクションの設定をします。
アクションは停止を選択すると止まります。
画像をボタンにして他のホームページにリンクすることもできます。
アクションの設定にさまざまなアクションの種類がありますのでトライしてみてください。

7. その他

1) 保存ファイル

- ①作業ウインド→ファイル→名前をつけて保存をクリック
データファイルPFLができます。
- ②次に作業ウインド→ファイル→フ SWF ファイル生成をクリックします。
フラッシュファイル SWF ファイル生成ができます。
- ③詳細設定→SWF ファイル生成時に HTML も保存するにチェックを入れたので
SWF ファイルと同時にHTMLファイルも作成されます。

2) ホームページにアップ

- ① HTMLファイルとSWFファイルをアップしてHTMLファイルをリンクして下さい。
- ② PFLファイル・画像ファイルはHTMLファイルとSWFファイルを修整する時に使います。

3) サンプル(200X200の小さいサイズです)

- ① [サンプル1](#)
- ② [サンプル2](#)
- ③ [サンプル3](#)